

中央地区まちづくり出前市長室開催記録

1. 日時 平成24年2月16日(木) 午後7時から午後9時30分
2. 場所 南浜児童館
3. 参加者 市民 約20人
市関係者 市長、副市長、政策監、市民環境部長、市民環境部副部長、
市民協働推進課

1. 大野会長(中央地区自治振興会)あいさつ

2. 市長あいさつ

3. テーマに基づく意見交換:「地区自治振興会とまちづくり」

会長 まず中央地区の活動報告をさせていただく。

地区自治振興会の活動とは、規約にもあるように「住みよい地域づくり」が一番の大きな目的であり、それに基づいて自治振興会がどのような活動をしていくかにかかっている。各地域で、自治振興会の活動が素直にまっすぐ育っていかないと市全体としての発展に支障を来すと思う。少子高齢化の問題などがある中、中央地区には、地区単独の小学校がなく、活動の範囲が狭まっていることは事実であるが、まずは、それぞれの地域で「安心・安全の地域づくり」が最優先されるべきだと思っている。

住みよい地域づくりを行っていくためには、「会員相互の親睦」が必要であるとともに、「生活環境の改善・向上」、「文化・スポーツ・レクリエーションの活動」、「福祉の増進」、「防災・防犯・交通等の安全の推進」などが自治振興会の具体的な目的であると考えている。これらを推進していくために「安全」、「環境」、「福祉」、「文化」、「体育」という専門部会を作って、それぞれの担当者が頑張っている。

福祉部会については、年に2回、高齢者を対象に「ふれあい交流会」を開催しており、非常に人気がある。将来、高齢者だけでなく3世代交流の場にもなり得るような「ふれあいサロン」のようなことをしたいと思っている。また、ボランティアで資源ごみ回収日に集めたペットボトルを松茂町にある障がい者通所施設に持ち込んでいる。この施設には、鳴門から20名ほど通っており、少しでも利用者のために収入に繋がればという思いがある。民生委員は、独居老人への給食サービスや傘寿者へのお祝い金、在宅介護者、独居高齢者への慰問金の配布を行っている。

安全部会は、従来の交通安全活動のほかに、防犯のための「チョッキパトロール」を行っている。これはチョッキを着て歩くというだけでも防犯に役立つので約70人の方にチョッキを配り、夏を中心に活動している。防災については、「自主防災会」の発足につながった。今後、災害時の安否確認に力を入れたい。また、地区内で火災警報装置の注文を取りまとめ、約250世帯分400個弱を一括購入することで各世帯の負担額を抑え、取り付けが出来ないお宅には取り付けもした。120世帯ほどは、既に設置済みと連絡をいただいたので、地域内で相当普及したのではないかとと思っている。

環境部会は、地区内に16箇所のステーションを設け、資源ゴミ回収を実施している。この収益は私たちの民主的な活動に大いに役立ち収入源になっている。また、通常の資源ゴミ回収以外にも先ほど言ったペットボトルの回収を行っている。また、環境美化の花植え活動では、公園や花壇の草抜き活動、EM活動を行っている。

文化部会は、「地区だより」を発行している。市からの補助金や会員からの会費の使途や活動、会計報告をする義務があるので、意義の深い情報源であると思っている。また、芸能大会を年1回3月に、この児童館で実施して非常に多くの方の参加がある。カラオケ同好会の活動も南浜集会所で行っている。今後は、文化活動に関する出前講座を開きたいが、活動のための場所が必要だと思っている。

体育部会では、「歩け歩け会」を年1回行っている。年配者の参加が多いためにあまり遠くへ行けないが、市外に乗り物に乗って行きたいという計画もある。適切な場所が地域内にあれば、出前講座でのヨガ、体操、太極拳なども望まれている。市が出前で実施する各種講座を利用するにしても、効率の良い場所で効果的に開催したいので、やはり、そのための場所が必要だと思っている。グラウンドゴルフ場も欲しいという部会からの要望もある。以上が中央地区の活動のアウトラインである。

今後、自治基本条例に基づき、中央地区のまちづくりを進めていくためにも、「地域の安全・安心のまちづくり」が必要だと思っている。安全部会の災害時の安否確認は、ぜひとも、市内の先がけとして中央地区から始めて、他の地区の模範になるような取り組みにしたいと思う。地域のお年寄りの方のトラブルもよく聞くため、民生委員の方にも協力を得なければいけないと考えている。色々な意味で防災と防犯の地域づくりを完成しておきたい。市民に喜んでもらえる環境づくりをすれば、「鳴門に居たい」と思う人が多くなると思う。

気になることとして、地域の婦人会や老人会は、積極的に勧誘をしていないこともあり、活動が停滞気味である。5つあった老人会が現在は3つしかない状況になっており、活性化が必要だと考えている。地区自治振興会の活動において、婦人会や老人会は欠かせない存在であり、私達からも働きかけるなどして、次世代の方に活動に参加してもらい、新しい人材が養成されていくことが重要だと思う。そのためにも各自治会でいろいろな活動をする時に、誘い合って一人でも参加者が増えていく努力をしないと地区自治振興会のみならず関係する団体の活動にも影響してくると思っている。

いずれにしても、防犯・防災を中心にしたまちづくりを進めることが、最大の福祉であると考えている。地域で福祉のために使う費用を防災対策のために充てても構わないくらい、地域の福祉を考えるには、安心・安全な地域づくりが一番大切である。

これまで、コミュニティネットワークづくりに取り組もうと、南浜集会所を『コミュニティネットワーク「中央」』として、地域の誰もが気軽に相談などに立ち寄れる拠点となるように進めてきたが、南浜集会所には、駐車スペースなどが無いため、どうしても活動が制約される。過去の市長からお願いしており、何年も経つが、何とか、地域の活動拠点づくりに道筋をつけたいということが本日の大きなテーマになる。いずれにしても、自治基本条例に基づく中央地区のまちづくりは、地域の活動拠点づくりに焦点を絞れば、市と協働していく大きな活動につながると思っているので、よろしくお願ひしたい。

市長 中央地区は、非常に広範囲にわたる取り組みを行っているという印象を受けた。特にペットボトルの回収を通じて、障がい者の方の通所施設をバックアップしているということは、他地域にはない取り組みだと思う。今、障がい者の皆さんに対する考え方は、国全体として、出来るだけ施設でなく社会のなかで生活していただくというものである。それには働く場所とそれに対する収入が非常に重要になってくる。その意味からも、障がいを持った方々の就労や収入のことも考慮されてバックアップをされている取り組みをこれからも続けていただきたい。市としてももう少しお手伝いが出来たら良いと思っている。

「3世代の交流」「サロン」というお話があった。おじいちゃん・おばあちゃん、ご両親、そして子供たちが一同に集うことの大切さを含め、中央地区は進んでいるという印象である。また、環境問題についても積極的に取り組んでいただいている。EM団子に象徴される「新池川をきれいにする会」など、活動の母体に中央地区の皆さんのご尽力があると思っている。

高齢者の消費生活問題が全国的に大きな課題になっており、本市でも、「振り込め詐欺」等に類似したようなことが身近に起こっている。市としてのPRが十分行き届いていない部分もあるが、本市では、消費生活センターを設置しているので、困った時はぜひ相談していただきたい。また、出前講座の形で、消費生活に関する情報を市からお知らせ出来ればと感じた。

「安全・安心のまちづくり」、「防犯」というお話もあった。3. 1 1の大震災を機に安心・安全のまちづくりという話が多くの地域でされるようになったが、それ以前から、中央地区では着実に考えられ、実行されて来られたと感じている。

鳴門市の高齢化率は非常に進んでいる。約26%の人が65歳以上の方であり、中央地区以外はもっと進んでいる。60歳以上の方になると約2万人いる。人口の約3分の1が60歳以上である。このことを踏まえて、これから10年先のことを考えていかねばならない。60歳以上の人は10年後に70歳になっており、安心・安全のまちづくりの中で、高齢者の皆さんといかに協働をしていくのがこれからの重要な課題となる。同時に、独居老人の方が多い、高齢者のみの世帯がものすごく多いということにも目を向けていかなければならない。安心・安全のまちづくりというのは、単に防災、災害ということだけではなく、常日頃の防犯や高齢者が安心して生活出来る環境を作っていくという意味を含んでおり、その点もふまえて、先に進んだ考え方をしているのが、中央地区だと改めて思っている。

4. 地域の課題についての意見交換

(1) 中央地区の活動拠点の必要性について

市長 あらかじめいただいていたご質問にお答えしていきたい。

この南浜児童館を住民の皆さんの拠点として、コミュニティセンターにしてもらえないのかということが一番目のご質問だった。現在、ここは児童クラブが使っている。児童クラブは基本的には、学校の空き教室を使っていくのが一番である。撫養小学校が近いので、撫養小学校に空き教室がないのかということが皆さんからのご意見であり、ここ2、3年は「空き教室はない」というのが市の答えだったと思う。

私も、事前に撫養小学校に行き、「児童クラブに使うための空き教室はないのか。その確認に来た。」と校長先生に伝えたいと、一緒に教室を回らせていただいた。いくつか空き教室があったので、ひとつひとつ尋ねると、特別支援の子どもたちのための教室であったり、給食を

食べるなど色々な活動をするために通常の教室以外に多目的に利用する教室が必要であったり、また、来年度から増加する児童にあわせて、空けておく必要がある教室ということだった。今後の撫養小学校の児童数を推計したデータがあり、それを見る中で、将来的に児童が少なくなった時には移設という話は出来ると思うが、来年、再来年すぐにとすることは、データや現場を見ても難しいというのが正直なところである。

話しを始めたばかりで実現出来るかどうかかわからないが、第一中学校の空き教室で児童クラブが出来ないかということも考えている。第一中学校に空き教室があれば、それが使えるかもしれないが、その時には児童クラブとの話し合いが必要であり、児童クラブ側も納得いただけるのであれば可能性もあると思っている。ただし、第一中学校は改築をするということが決まっており、平成29年の完成に向け、平成24年度に実施設計をして、それから工事に取り掛かる。たくさん生徒がいるので、全部壊して一気に建てるということは出来ず、少しずつ改築していくので時間はかかる。そういう状況なので、今ある空き教室の中に移っていただけたとしても、現状と改築している時では事情が変わってくるので課題も多い。

まずは、子供たちの移転していただく場所を確保してから、南浜児童館をコミュニティセンターにするという考えが出来ると思うが、調整がまだまだ難しいというのが今日の返事である。方策として、新しくコミュニティセンターを造るという選択肢もあるが、今の状況ではなかなか造れない。非常に申し訳ないが、納得していただけるようなご返事がすぐさま出来る状況ではない。

市民 この児童館は地域の者が使いにくい。今日も18時から21時まで部屋を借りるのに使用料が1200円かかっている。今ある暖房器具（石油ストーブ等）も、数が足りないので参加者が家から運んできた。近所にある趣味の作業室は一人で朝から晩まで独占して使っている人がいる。両施設とも、どんな管理の方法をとっているのかわからないが、施設を使うのだったら、どういう使い方が正しいのか考えて欲しい。この児童館にしても、地区の子供が遊びに来ても構わないという方向で考えて欲しい。地区の住民が敷地内に入ろうとしたら、「入るな」と言われた人もあるようだ。

市長 それは、児童クラブの子しか入ってはいけないという意味か。

会長 そういうことだ。児童館の庭を歩いて趣味の作業室まで歩いていくのに「許可書を書いてくれ」と言われた。また、近所の家にお孫さんが帰ってきて、前は児童館の庭などで遊んでいたが、今は全く入らせてくれない。そういう意味でも、児童クラブに別の場所に移ってほしい。「地域に開く」という学校に関係することが非常におかしくなっている。私が小学校に行くにしても事前に電話をしなければならない。無断で行ったらおかしい話になる。大阪府池田市の事件以来、教育関係に変な状況が起きていて、地域と考え方に開きがあると思う。教育委員会は聖域的なところがあり、市長もやりづらいことはわかる。しかし、「教育委員会の体制を変えよう」という世論が出てきているのは、当然あるべき状況といえ、政治的に変革していかなければならない。世論として上がっているのだから変わる時代が必ず来ると思う。教育委員会のあり方は、今のままでは良くないと思う。公民館を自治振興会の管轄にしたほうが意味があると思っている。法律改正などに関わらず、活用の仕方を変えれば、地域の活性化にもつながる。

市長 今の話を聞かせていただき、そのような状況があることをはじめて知った。一度確認させ

ていただき、話をしてもう一度在り方を考えてみる。また、小学校に行く時に電話をかけなければいけないことについても、教育長はじめ教育委員会とも話をしてみたいと思う。

市民 桑島小学校では、かなり昔から地域のつながりがあり、老人会や婦人会が空き教室に配置されたコピー機を使うために小学校に出入りしているそうだ。地域性もあるかもしれないが、昔の校長の時代に始まったことを今でも受け継いでいるのかもしれない。(桑島地区では、地区自治振興会が所有するコピー機を小学校との連携で校内に配置。)

市民 昔、教育委員会に行った時に、「市役所の出先機関でこんなに汚いところがあるのか、もっと掃除をしておけ」と何度も思ったが、何も言わないで帰ってきた。当時は、支援物資などが積まれていたのかもしれないが、ダンボールを置くにしても整頓出来るはず。どんな仕事をしているのかは知らないが、玄関ホールも含め、どうして綺麗に出来ないのか何年も思っていた。

市長 玄関ホールも含め、今でも褒められたものではないと思うので何とかしたい。

市民 この児童館は、鍵っ子対策として、斉田幼稚園の中に斉田児童館が造られた時に、「斉田にあるのに南浜にはない」と当時の市長に要望するなどして出来たものである。子どものために造ったものだから、我々は使えないが、「晩だけでも良いので使わせて欲しい」と依頼したのが歴史の始まりである。南浜集会所も国体の時に出来たと思う。もともと南浜には何もない。南浜児童館を夜に使えるということになり、ダンスサークルの集まりもしていたが、ハイヒールなどで床に穴を開けてしまい、その結果使わせてくれなくなった。

市長 私も認識不足だった。今回いただいたご意見については、もう一度整理させていただく。

会長 活動拠点については、市長に任せておくだけでなく、私を入れて、教育委員会を入れて、会を作ることを提案していたと思う。そうでもしなければ、部屋が空いていないと言われても気が治まらない。私が教育委員会に行って、直接掛け合うのは得策でないと思う。

市長 現実、私が直接見に行かせていただいた時には、教室が空いていないという状況であった。

市民 昔は子供が多かったが、今は子供が減っている。それなのになぜ部屋が空いていないのかというのが住民の意見である。それを納得させることができれば良いが、納得出来ていない。

市長 今は、35人学級という基準を決めさせていただいているので、昔だったらひとつのクラスで良かったのが、定数を越えたら、2つの学級に分けなければならないなど、昔にはなかった事情があることは確かである。

市民 学年としては、クラスがものすごく少ない。

市民 昔であれば、撫養小学校は、1クラス50人くらいで4クラスあった。撫養小学校は、昔は黒崎小学校や桑島小学校と違い一番人数が多かった。

会長 いずれにしても、私を会に加えられるように考えてほしい。

市民 今は、南浜集会所を代わりに使っているが場所が狭いし、駐車場がない。南浜児童館なら駐車場があり、場所的にも地区の真ん中にあり、ちょうど良い。

市長 まずは、話をする場を作れということなのか。

会長 そのとおりだ。私が納得したら、地域の皆が納得してくれる。

会長 3世代交流の話も一般的に言われているようなものでなく、鳴門市を中心に金儲けをして欲しいという意味で言っている。鳴門には高齢者しかおらず、子世帯は松茂や北島に住んでいる。鳴門で色々な三世帯交流事業することで、町外にいる子供らを鳴門に引っ張って来たい。その際に空き家を更地にしておけば、そこに住もうかということにもなる。

(2) 地域の空き家を更地にするよう指導して欲しい

市長 空き家については、市が直接的に指導するという権限はない。県の建築開発指導課が指導している。平成23年度は、現在までに5件、県に相談があったようだ。そのうち1件は、市を通じたものであり、残り4件は直接住民からの連絡によるもので、5件のうち1件は指導に従ったが、4件は指導に従っていただけていないようだ。平成22年度も3件あり、解決したのは1件である。未相続の状態のまま放置されているため、子どもが壊そうとしても、兄弟など他の相続人から反対されるという話しや壊したくてもお金がない場合もある。県も指導はしているがなかなか進まないという現実がある。相続のことなどは立ち入れないが、市としても出来る限り、県に相談していくとともに、まちづくり課を窓口に関に協力していきたいと考えている。壊したくても壊せない理由がある人もいるので、ご理解いただけたらと思う。

重点密集市街地区域である堂浦・北泊地区や土佐泊地区でも同じ状況がある。漁師町で狭くて家がなかなか建てられず、駐車場がとれないため、若い人がどんどん出て行って、いずれは家だけが残ってしまう。空き家の件は、中央地区だけの問題ではなく、市全体の問題であり、ひいては県・国の問題でもあるので、市としても、出来るだけ所有者への直接確認や改善命令といった話が進むように県に協力していきたいと考えている。

(3) 避難場所としての第一中学校と棒杭山（中央公園）について

市長 第一中学校は、平成24年度に実施設計し、平成25年度中に一部解体工事に入る。新しく出来るのは平成28年度で、最終的に取り壊し等で平成29年までかかる。新しい建物は何階建てになるかは決まっていないが、かなり高い建物になり、耐震化も出来ている。徳島県が暫定津波浸水予測を出し、中央地区でも50cmから1mほど浸水するという予想であり、低いところに発電機器などがあれば使えなくなるので、トイレや発電機器などを屋上に配置することも考えていかなければと考えている。

今の第一中学校は、震災に対応した避難所としては難しいところがあるが、通常の台風災害では大丈夫だと思っている。県の暫定津波浸水予測値が出て、今後、国からも正確な数値が出てくる。違いがあれば、それを修正しながら、確定的な数値に基づいて、この建物は震災でも大丈夫とか、震災には対応出来ないが台風などの一般災害なら大丈夫などと区別をさせていただこうと思っている。第一中学校については、平成28年には確実な避難所として、皆さんを迎えることが出来ると思っている。

続いて、棒杭山だが、津波の際は、駆け上がっていくのが一番良いが、急傾斜地崩壊危険区域に指定されているのでどうなるのかという話であったかと思う。現状を見てみると正面のメインの登り口は急傾斜地の対応で防御柵等をしているが、昭和46年に施した古いものであり、県も何かあった場合に耐えられるのか確認に来ていたらしい。もしも震災などが起こった際には、崩れてしまう危険がまだあるので、危険区域からは外せないということらしい。ただし、5年毎に見直しをするようなので、緻密な計算のうえ、アンカーを打ったりするなど何らかの対応がされれば危険区域から除外されることもある。

北側の岩崎神社のほうから登るルートを使えば、頂上までつながっているので大丈夫だと思う。実際に、担当者も上がって見てきた。もしも、地域のほうで考えていただき、何らかの整備をすることになる場合は、市で避難路を整備するための補助金制度を作っているもので、活用

していただきたい。

市民 あそこは斉田地区だから、岩崎神社の階段からは登ったことはない。しかし、先日久しぶりに棒杭山に登ってみたが、万一の時は山に登るのが良いとつくづく思った。今度は岩崎神社の方から登ってみようと思っていた。

市民 中央地区だと正面の登り口のほうが近く、岩崎神社の登り口に行くまでに時間がかかる。

市長 震災が起こった時にはどういう状況になるのかわからないので、通常10分で行けるところが、それ以上かかるかもしれないので、近いところが一番良いとは思っている。

市民 岩崎神社も境内までの石段だけなら上がりやすい。しかし、津波の状況でそこから先の棒杭山に登ろうとしたらそうでもない。

(4) 東浜一番地進入道路（北側）の補修について

市長 昨年9月15日から21日までの台風15号でこの道路の一部が陥没したため復旧工事をさせていただいた。2ヶ月程かかり、皆さんにご迷惑をかけた。今回のご要望は、45mくらいの区間であり、舗装するだけならば時間はかからないが、路肩をきっちりとして道路を作っていかなければいけないので、非常に財政的な負担がかかる。1年につき15mずつ、3年かけて対応させていただきたい。

市民 その箇所に行くまでに新しく出来たマンションがあり、その裏側付近の路面舗装も何年も前から言っているが直してくれていない。

市長 また確認する。

(5) 新池団地の跡地をグランドゴルフ場に整備出来ないか

市長 市営住宅は、まだこれからも使える市営住宅と古くて使えない市営住宅とに分けている。古くて使えないところは入居をお断りしており、現在入居中の方にも他への転居を呼びかけている。特に新池団地は古いので、他の新しい市営住宅へ転居していただけるよう入居者に呼びかけている。その際、家賃が変わるので、負担が和らぐよう段階的に引き上げていくことも説明している。しかし、長期間かけて説得しているが、皆さんにも言い分があり、残られており、現在のような入居者数になってきている。今回、県の暫定津波浸水予測値が出たが、新池川沿いで一段と土地が低い新池団地は心配な場所のため、見過ごして、そのまま引き続き住んでもらうことは出来ないと思っており、安全なところに変わっていただけるよう働きかけていかなければならないと思っている。

新池団地の入居者がいなくなればどうするのか、今様々なことを考えている。市の財政も厳しいので、更地にして売ることもひとつの方法であるし、ほかにも利用方法があると思う。この件については、新池団地だけではなく、他の廃止予定の市営住宅全ての有効利用ということを考えているので、今すぐに新池団地跡地をグランドゴルフ場に出来るかという時間がかかると思っている。ただし、「グランドゴルフ場に出来ないか」というご意見はきちんと受け止めさせていただく。例えば、限られた期間やエリアを暫定的に使っていただくなどいろんな考え方が出来ると思うので、今日は提案があったということだけで了承いただけたらと思う。

(6) 市として明確な増収策はあるのか

市長 「市がもっと金儲けをすることを考えてほしい」ということだが、大企業を呼んでくることもひとつの方法かもしれないが、全国で引っ張り合いをしている状況である。企業にしてみても、日本での生産活動はなかなか厳しいところがあり、今も海外に出て行こうという動きがある。私としては、今ある地元の中小企業が一番地域の雇用を生むと思っているので大切にしていきたい。すぐには出来ないが、雇用が生まれて税収が上がるように環境づくりをしようと考えている。24年度の当初予算の発表の時にも話したが、「エコノミックガーデニング」という手法を用いて取り組んでいきたい。これは、アメリカの小さな町が20年かけて地道に地元のための施策を行い、雇用が2倍に、税収が3倍になったという話があり、それと同じことが鳴門ですぐに出来るかといえば二の次であるが、やっといこうと決めたので地道に進めていこうと思っている。

地域の活性化が一番大事なので、鳴門へ多くの人に来ていただき、ジュースの1本でも買ってもらい、ご飯を食べてもらい、泊まっていただくということを仕掛けていかなければならないと思っている。良い例として、先日、市内で全国の小学校英語大会があった。鳴門教育大学と地元の小学校5校に全国から300～400人程が来てくれた。土曜日の夜は、街中の食事処や飲み屋はほぼ満員だった。タクシーもよく稼働したとのこと。ホテルに聞いてもほぼ満室だった。今、人がなかなか増えていかない状況の中で、市としては、まず観光であれ、イベントであれ、人を呼び込むことをすれば一番近道と考えており、呼び込むことによって地域の事業者の皆さんが潤っていくと考えている。

企業誘致については、木津と明神の工業団地にまだ創業に至っていない区画がある。そこについては、立地のうえ創業してくれたら、「鳴門の人を雇う」という条件をつけて、固定資産税相当額の奨励金を交付するなど優遇措置を実施している。

一番、効果が早く現れるのは、徳島ヴォルティスがJ1に上がることだと思っている。駐車場不足や渋滞が起こるといった課題もあるが、確実に1試合1万人くらいの観戦客が鳴門に来る。対戦チームのサポーターとして、常時鳴門以外から2000～3000人来る可能性があると言われており、効果が上がってくるのではないかと考えている。

それから、中国からのチャーター便が徳島に来るようになった。渦潮を見るために鳴門には中国人観光客が来て、そこでお金を使っただけは確かに確実である。すぐには難しいかもしれないが、県も尽力してくれており、効果が上がっていけば良いと思っている。そのためには、中国語の看板も当然必要になり、買い物の際に中国の通貨単位での価格表示も必要になるので、そこから対応を始めていけたらと思っている。

抽象的な事柄やすぐには出来ないことも話したが、人が集まってお金が入ってこなければ街も形成していけないと考えている。特に、防災など安心・安全のために使うお金も、そのような外部からの収入により捻出が出来たら良いと思っている。何かお知恵があればどんどん言っていただき、良いものであればすぐに取り入れたい。

(7) エコポイントの交換について

市長 「エコポイントの交換はうざとく商品券に」と市民の皆さんに協力依頼をすれば、地域活性化につながるのではないかと考えている。今出来ること

として、市ホームページの新着情報でPRすることを考えている。まずはホームページでPRさせていただき、その都度、何らかの方策を考えていきたいと思っている。

(8) 市議会議員の報酬の減額について

企画総務部長 市議会議員、市長、副市長、教育長、企業局長を特別職と呼んでいる。私たちのような一般職については、毎年人事院の勧告があり、平成9年度ごろから給料が少しずつ下がってきた。平成9年度からは約6%以上下がっている。その間特別職の給料や報酬は全然見直しが行われていなかったため、市長、副市長については、臨時的に25%のカットをしたが、基本的な水準は下がっていなかった。このため「特別職報酬等審議会」を今年度開き、市民の皆さんに参加していただいた。どれくらいの給料が良いかご意見を伺い、それぞれ引き下げのご意見をいただいた。

それにより、来週始まる議会に給与を改正する条例案を提案する予定である。その中で市長については6.19%、副市長については5.56%それぞれ引き下げの案を出す。

議長・副議長・議員についても、その審議会の中で、市民の皆さんからそれぞれ5.3%位から7.3%位引き下げる意見が出ている。これを踏まえられ、議員の皆さん自身が条例改正の提案をすると伺っている。このようなことから、今議会を経て、条例改正が行われ、議員など特別職の報酬などが改定される見通しになっている。

議員定数の問題については、議員の皆さん自身でご検討いただくべき事柄であり、お聞きしている範囲では、議員間でも検討されるという意見も出ているようである。

市民 市長と議員の来年の選挙は1ヶ月くらいずれているが、一緒にする予定か。

市長 私が言える状況ではないが、法的には一緒に出来るということだけは聞いている。

先ほどの「特別職報酬等審議会」で決めていただくことは給料や報酬月額だけであった。しかし、それ以外にも今回いろいろと私に関することや議員に関することや附帯意見をいただいた。具体的にはボーナスなども審議会と一緒に議論しなければいけないということや2年に1度は審議会を開催するようになどであり、今後の話しになってくると思う。附帯意見に書かれたことを実際にやるかやらないかは、市長の判断であり、議員の判断になる。私達が口を挟むことではないが、同時に議員さんのほうでも、議員定数を議論していこうという声が上がっているそうである。

(9) NPO法人やコミュニティビジネスの促進について

市長 NPO法人やコミュニティビジネスなどの促進は税金増につながる施策なのかという話であるが、NPO法人は非営利活動法人であり、基本的には利益を追求しないので、正直税金増にはつながっていないと言わなければならない。ただし、その中で働いて賃金を得た人が、市民税として、税金を払っていただけるという可能性はある。

NPO法人に対して、市から補助金を支出するなど運営をサポートしているのではないかとよく言われるが、市とNPO法人との関係は、「こういう仕事をこの金額でやってもらえないか」というように委託という形で仕事をしていただいており補助ではない。色々な目的を持ったNPO法人があり、その目的と市の考え方が合えば、一緒に仕事をしていきたいというのが私の考えである。参画と協働という立場でお付き合いをしているのでご理解いただけたらと思う。

(10) 下水道工事の進捗状況等について

市長 下水道事業だが、市内全体で1660ヘクタールの区域で整備を計画している。このうち第1期計画区域は南浜を含む103ヘクタールになった。平成23年からは第2期計画区域のご承認をいただくために色んな議論を重ねてきた。第2期計画区域は当初100ヘクタールくらいの規模で考えていたが、国からの補助金が少なくなると予想されたこともあり、規模縮小させていただき、78ヘクタールの予定としている。私としては、やるべきことはやらなければならないと思っているが、何が何でも100ヘクタールするというのではなく、国の補助金の範囲、また市として負担できる範囲の中で、身の丈にあった事業を進めていきたい。時間もかかり、また、市民の皆さんにもご負担をお掛けするので、色々なご意見もあると思うが、水環境の整備は、将来においても必要になると思うので、ゆっくりでも進めさせていただけたらと思う。何度も言うが、絶対にここまでやってしまうという考えはなく、身の丈に合う事業量で進めさせていただきたいと思うのでご理解をお願いしたい。

(11) その他

市民 私は老人福祉センターをよく利用させてもらっているが、運動器具の部品が次々に壊れている。ベルトマッサージャーのベルトも最近直ったばかりであり、血圧計も壊れている。壊れている器具が多いので、この機会に直していただき、老人福祉センターを充実させて欲しい。

市長 老人福祉センターは、多くの皆さんの利用があり、色々な要望がある。血圧計の話も聞いており、ベルトマッサージャーも「すぐに壊れる」という話しは聞いている。ベルトマッサージャーは、普通は1日に数十分しか使わないが、センターでは何人もが並んで、切れ間がないくらいに使っていただいていることから、ベルトが切れたりして頻繁に壊れる。ベルトは非常に高価なものであり、今回は、善意で修理してくださる方がいたので、すぐに直った。市としても出来る限り、センターの環境整備を行いたいと考えており、非常に音が悪いと要望のあった3階大会議室の放送設備は、9月補正予算で費用を確保したので、もうすぐ直ると思う。ベルトマッサージャーやヘルストロンについても考えていこうと思っている。

市民 第一中学校の東側に三角地になった植え込みがある（市有地）。そこは、すぐ近くの住民が20年くらいずっと草抜きをしてくれている。しかし、高齢になったため草抜きが出来なくなり、市役所のほうに頼んだようだ。すると、見に来た市職員が「うちの課ではない」と言ったきり対応してくれないそうである。どうすれば良いか今日聞いて来て欲しいと頼まれた。

市長 一度確認させていただく。

市民 私は、独居老人だが、地域の高齢者3～4人寄り集まっては、「この家で皆と一緒に暮らして、ベッドを並べて最期まで過ごさないか」と言っている。実際に高齢者が集まって集団生活した場合に、補助して欲しいとは言わないが、市の福祉関係部署に言えば何らかの対応はしてもらえるのか。皆、年金ももらっているが、施設はお金がかかるのでなかなか入所出来ない。日曜日に南浜集会所に寄せてもらい、地域の役員さん達にいろいろなことを教えてもらっている。前にも、粗大ゴミを捨てる時には良い方法があると教えてくれて助かった。今は、皆が高齢者になっているから、一緒に住もうと話しており、九州の方でも事例があり、テレビで放映されていた。4、5人が一緒に住んでも、介護も受けることが出来ると思うが、「炊事が出来なくなったらどうしようか」など皆で話しており、心配が尽きない。

市長 個人で住んでいる場合だけに限らず、4人で一緒に住む場合もおそらく介護保険が適用されると思う。ただし、介護保険は認定調査をさせていただき、要介護度をランク付けしたうえで、自己負担もしていただきながらサービスを受けていただくという制度である。例えば、4人で住んでいて、そのうち2人が調子が悪くなくても、認定さえ受けていれば、ヘルパーに来てもらうことも可能だと思う。高齢者を支える制度づくり、仕組みづくりも考えなければならぬとお話を伺って改めて思っている。

今年の4月から、介護保険料が改定になる。全国的に高くなるという話があり、基準額は5000円を超えるだろうと言われている。ただし、本市は、介護予防に力を入れており、いろいろな体操や太極拳などに市民の皆さんがしっかり取り組んでくださっているのです、おそらく、4800円のままで据え置くことが出来そうだ。県下でもかなり低めの金額だと思う。ただし、これはあくまで基準額なので、これを基準として高くなる人も安くなる人もいるが、基準額で見れば、かなり評価していただける金額が出ていると思う。これは、市民の皆さんが一生懸命に体を動かしていただいているおかげだと思っている。介護保険が始まって12年になるが、最初は、本市は1番保険料が高かった。その後、他市町村の保険料がどんどん上がってきて、本市は横這いくらいできた。60歳以上の人が2万人以上いるという現実も踏まえて、今後も市として、皆さん一人ひとりが健康でいられるように努力をさせていただきたい。皆さんも介護保険を使わなくても良いくらい、とにかく元気で暮らしていただきたいと思う。

市民 地区の役員さんに教えてもらい、市役所から職員が来てくれて、地震が来ても茶箆箆とかテレビなどが倒れないように全部していただいた。おかげさまでありがとう。

市長 家具転倒防止策のことだと思うが、どんどん利用していただいたらと思っている。要件を緩和して、今は、65歳以上の高齢者の方がいる世帯ならご利用いただけるようにしたので、知り合いの方などにお声掛けをしていただきたい。

市民 棒杭山の状況を報告しておく。メインの登り口のところから少し上がったところになるが、落石防止のため、ワイヤーロープを斜面に網目状に張り、アンカーで打ち込んでいるところがある。下からは藪になっていてわからないが、上って見ると、県がそれなりの補修をしているのがわかる。一度、見に行ってみよう。

市長 私も見に行ってみよう。

会長 3月4日に中央地区で防災訓練を実施する。県が出した暫定津波浸水予測図の中央地区部分を市危機管理室で大きく引き伸ばしてもらったので、今度の防災訓練で展示させていただく。白黒だが、浸水の状況が一目瞭然で地域住民によくわかる。

棒杭山の件は、地代主神社サイドから上がらないとメインの登り口からでは急勾配すぎてお年寄りには無理だという判断をしている。そこで、今はつぶれて上がれなくなっているが、昔は地代主神社の裏から登れる道があったので、何とかそこを復活させようと思っており、今度の役員会で相談させていただく予定にしている。皆で登って検証してみたい。浸水予想が2mくらいまでなので、神社の境内も若干高い場所にあるため、100～200人くらいは避難できる。しかし、想定外の浸水になれば、山に登らないといけないので避難路を確保する必要があり、思い切った対策を取ってみたいと思う。避難路の整備にお金がかかるなら、見積もりをとって、市にもかけ合ってみようと思う。地域の住民が少しでも助かることであれば頑張りたいと思っているので、地域の皆さんの協力をよろしくお願ひしたい。

市民 津波のシミュレーションをホームページに載せないのか。

市長 今、津波浸水に関して出ている数値は、県が出した暫定値になる。今年の春から秋にかけて国から確定的な数値が出される。それが出たら、改めて洪水ハザードマップも含めて、皆さんにお示しさせていただこうと思っている。その時には、色んな形で皆さんにお知らせしたい。県の暫定値と国の出す数値に差がある場合など、修正が必要となり、かえって情報が混乱するので、国からの確定的な数値が出るまで、今しばらくお待ちいただきたい。

市民 数値が変わるのであれば、防災訓練のやり方もまた変えていかなければいけないのか。

会長 県は、そこまで大幅に変わることはないと会議で言っていた。とりあえず、これをたたき台として地域でも取り組みを進めていこうと思う。

(以上)